

平成30年 8月 3日

視 察 結 果 報 告 書

東松山市議会議長

岡村行雄 様

会 派 名 公明党

代表者名 大滝きよ子



| 月 日 | 視 察 地 | 視 察 内 容 |
|---|--------|---|
| 平成30年 8月2日 | 千葉県浦安市 | ・視察者 大滝きよ子、大山義一 |
| | | ・視察時間 13時30分から15時30分 |
| | | ・訪問場所 浦安市役所 |
| | | ・説明員 千葉県浦安市環境部環境衛生課 榎 課長 奥山課長補佐 愛護員(市民ボランティア) 5名 |
| | | ・視察項目 地域猫(ノラ猫)・愛護員制度について |
| | | ・視察目的 ノラ猫対策に取り組む上での行政と市民の協働のあり方を調査するため |
| | | ・要旨 ノラ猫の糞尿被害やごみあさりによるトラブルが多発したことにより、行政は「環境問題」として市民生活の向上、暮らしやすい地域づくりに重きをおいた取組を開始。ノラ猫を適正に飼育管理するために横浜市磯子区の地域猫の取組を参考に市民ボランティアを募り「愛護員制度」を創設。市は「浦安市飼い主のいない猫の不妊去勢手術費助成交付金要綱」を制定。 愛護員1人に対して年間5匹まで不妊去勢手術費を助成。当初は立替払いであったが現在は委任払いに改正し愛護員の負担軽減を図る。 創設から10年間の助成実績は1,230件(匹)、約4,000万円強を助成。 結果、現在では子猫の数が明らかに減少。 |
| ・視察成果・所感 ノラ猫対策は、市民の取組だけでは限界がある。 また、行政主導でも長続きしない。行政と市民との協働が必須。合わせて県との連携も必要である。 あとは、どこまで獣医師の理解と協力が得られるかがカギとなる。 | | |